

学術フォーラムの概要について（事後報告）

1 名称：放射性物質の移動の計測と予測 ― あの時・いま・これからの安心・安全

2 日本学術会議以外の共同主催団体等：

・主催：なし

・後援：日本地球惑星科学連合，日本気象学会，日本海洋学会

3 開催日時：平成29年8月7日（月） 12時00分～17時00分

4 開催場所：日本学術会議講堂

5 開催趣旨：

原発事故時の住民防護を考える上で、放射性物質の移流・拡散の計測（モニタリング）と予測は極めて重要な要素である。本フォーラムでは、福島第一原子力発電所事故時の緊急時迅速放射能影響予測ネットワークシステム（SPEEDI）等の予測手法の問題点の検証と、現在の技術的到達レベルについて、これまでの地球惑星科学委員会における審議の成果を公表するとともに、その成果に基づいて対策を社会実装するときに忘れてはならないものは何かについての検証と分析を行う。それらを通じて得られた共通認識を踏まえて行うパネル討論では、真に住民の安全確保に貢献しうるモニタリングと予測があるとすれば、それらが備えるべき要件は何かを審らかにする

6 参加人数：

講演者等：13名

その他の参加者：152名

7 特記事項：

(1) 報道関係者の取材は、テレビ局1、新聞社6、通信社1。

(2) 学術フォーラム前日に開催の地球惑星科学委員会において、「学術フォーラムのまとめを24期の地球惑星科学委員会の審議につなげる」ことが、24期に申し送られた。

(3) 「学術の動向」（2018年3月号）に特集記事として掲載予定。